

令和4年度全国学力調査の結果から、国語科「言語の特徴や使い方に関する事項」、「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」に絞って、各学年、専科で課題分析を行い、授業改善策を考える。

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な話す力、聞く力が身に付いていない。語彙力が乏しい。 言語の習得に個人差が大きい。 本に親しむ機会が少なく、文章読み取り能力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業の中心発問時やまとめの際に、ペア・グループ学習を効果的に取り入れていく。 書く指導やタブレットのドリルパークを通じて、繰り返し言語習得ができるようにする。 朝読書や図書の時間を活用し、読書活動を推奨し、読書の習慣化を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味を正確に理解していない。 問いかけを正確に理解した返答ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 別の言い方などを意図的に聞いていく。 タブレット端末などを活用して、その児童にあった問題を反復練習させていく。 問いかけを明確にする。 読み取る力を育てるために、音読や読書を推進していく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の音訓や部首、基礎的な文法問題、国語辞典の使い方の理解が不十分である。 読書習慣に個人差が大きく、語彙力や読解力にも関係している。 	<ul style="list-style-type: none"> モジュールの時間や自主学習の宿題などを活用して、漢字の音訓や部首、基礎的な文法問題、国語辞典の使い方の復習をしていく。 語彙力を高めるために、国語辞典を使う時間を授業の中でも確保する。 国語で学習した言語事項など、他教科で活用する機会を意図的に取り入れる。 文章で読み取ったことをペアやグループでアウトプットする時間を設定する。 朝読書や図書の時間を活用し、読書活動を推奨し、読書の習慣化を図る。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 感想や考えをまとめたり書いたりする活動に抵抗感がある。 自分の考えの理由や事例との関係を、分かりやすく説明したり、書き表したりする力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアや小グループで発表し合う活動を取り入れる。友達のことを参考にしたり、自分の考えを付け足したりする指導をする。 根拠を挙げて、感想や考えを発表する活動を多くする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、既習漢字を文章の中で使えていない。 登場人物の関係について大まかには捉えられるが、自分の考えの理由や事例との関係を、分かりやすく説明したり、書き表したりする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> モジュールや朝読書の時間を活用し、文章に触れる機会を多くし、既習漢字を日常的に活用できるようにノート指導をする。 人物の心情に迫るために「人物の行動」「会話文」「人物の様子や表情」に着目して読み取らせるような指導をする。

6年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。 ・叙述に基づいて、文章を的確に読み取り、説明的文章の構成や展開について理解したり、物語の登場人物の相互関係や心情について捉えたりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で、一文を書く課題を出し、新出漢字や既習漢字について書く機会を多くする。 ・新出漢字だけでなく、既習漢字においてもテストを行い、定着を図る。 ・説明的文章では、それぞれの段落についての要点を捉えた後に、構成について考え、議論する時間を設ける。 ・読書量を増やすために、学期に一回ブックトーク（物語に限定したもの）の時間を設ける。
専科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な話す力、聞く力が身に付いておらず、活動の趣旨がつかめないまま行動してしまう児童が多い。 ・鑑賞においては語彙力が乏しいため、感じたり思ったりしたことを自分の言葉で伝えられない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の手順を視覚化したり、分かりやすく伝えられるよう ICT 機器を活用したりして教材や導入を工夫する。 ・発表の機会を増やしたり、教師が積極的に専門用語を使ったりすることで、知識として身に付け、自分の言葉で伝えられるようにする。